

BMC International Winter Climbing Meet 2014



2014年1月26日～2月2日、イギリス山岳協議会（The British Mountaineering Council（以下BMC））が主催するインターナショナル・ウィンター・クライミング・ミート 2014 に日本山岳協会からの派遣で今井健司と中島健郎が参加しました。以下の通りご報告いたします。

日時：2014年1月26日～2月2日

場所：イギリス、スコットランド

参加者：ゲスト 26カ国 44名、ホスト 47名

（日本からは今井健司 31（Right&First）、中島健郎 29（関西学院大学山岳会））

日程概要：

1月25日 日本（成田空港）＝イギリス・ロンドン（ヒースロウ空港）

1月26日 ロンドン（ガトウィック空港）＝スコットランド（インヴァネス空港）

1月27日～2月1日 各地でクライミング（全て日帰り）

2月2日 スコットランド（インヴァネス空港）＝ロンドン（ガトウィック空港）

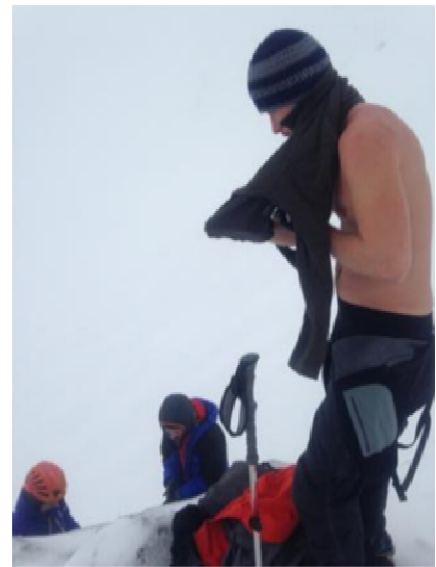
2月3日 ロンドン（ヒースロウ空港）＝

2月4日 ＝日本（成田空港）

行動概要：

時差ボケのまま降り立ったスコットランドは生憎の曇り空。いや、生憎というのは語弊があった。毎日が曇りで雨か雪が降りたり止んだり。この土地ではこれが当たり前。結局クライミング時もサングラスを使用した日は無かった。

クライミング初日は雨。そもそも緯度が日本より高いのに真冬に雨とは考えもしなかった。実際気温も高く、氷点下になることはほとんどない。天気が比較的穏やかなエリアを探して2時間のドライブで着いた Glen Coe (Stob Coire Nan Lochan) の岩場も雨のアプローチから始まる。話には聞いていたが、歩くスピードが早い。もともとの足の長さの差もあるのだが、普通に歩いていたなら徐々に離されてしまうので早歩きしなとついていけない。2時間近く歩いたが、休憩もとらず一気に取り付きまで。もちろん汗だく。そこで出ました、お着替えタイム。取り付きでは雨ではなく雪に変わっていたが、雪の降る中上半身裸になって着替えている様は何とも異様。汗が冷えて寒い思いをするよりは断然良さそうだが、汗をかかないようにすればいいのと思う。



前半3日間のパートナーは偶然にも2年前に長門さんと組んだ Simon Frost。ここの壁はピッチスケールでは3P程だが傾斜の強い壁で、日本のような草付きやブッシュのないスッキリしたフェース。ルートは多くあるが、壁が横に広いので所狭しにルートがびっしりある訳ではない。初日なのでルートグレード自体は易しめだったが、その中でもサイモンはなぜか弱点ではなく、あえて強点を登らせようとする。ヘックスなど使ったことも無いギアなので、イマイチ安心感が持てない。傾斜のあるクラックではさっそく軽くパンプしながらも、快適なスコットランド冬壁初日を楽しむことが出来た。

二日目はロッジから一番近い Cairn Gorm へ。車で10分ほどでスキー場に付き、そこから1時間程度で歩いて Coire An T-Sneachda の岩場へ到着。ここもルート自体は2～3ピッチ程度でそれほどスケールは大きくないが、ルートの取り方次第で易しいのから難しいのまで様々。ルートも短いのでこの日は



2本登ったが、いずれにせよ快適。岩も安定していてクラックも発達しており、下降も歩いてすぐ。ここでは日本のフリーゲレンデにでも行くような感覚で冬壁に行けてしまう。

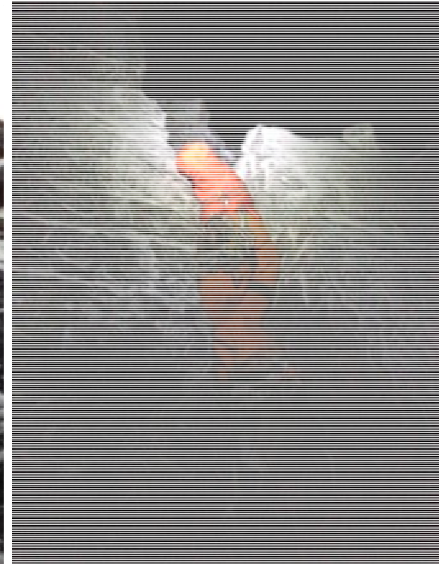
三日目はサイモンとの最後日なので、長いマルチピッチルートを選んでくれた。ドライブ2時間、歩き2時間で到着したのは Northern Highlands, Beinn Eighe(Triple Buttresses)の West Buttress Direttissima(VII, 8)。ディレティッシマというだけあって、見上げるコーナーはすばらしく直線的だが、傾斜は強そう。サイモンのリードでスタートしたものの、出だしから苦戦している。フォローでようやく分かったのだが、今までと違い草付きが多い上に今日は気温が高い。全く役に立たない草付きに何度もアックスを振ってドロドロになりながらピレー点に到着。続く2P目は傾斜が増してプロテクションも余り取れない上に、凍り付いていない氷や草付きで結構シビア。なんだか日本の冬壁を登っているのと錯覚を起こしてしまいそうだ。3P目サイモンリードだが、小ハング越えが見るからにヤバそう。下は甘いプロテクションなのでろに落ちたら吹っ飛ぶ系。何度もアックスを振って行ったり来たりしていたが、テンションが入り選手交代願いで僕にリードをさせてもらう。確かにこれでは落ちられないというプロテクションなので、自然と腕に力が入る。パンプしているがなんとかクリア。あとはそれほど難しくもないルートだが途中から日が落ちヘッドランプでのクライミングだったのでトップアウトは20時。駐車場には22時過ぎて、ロッジには24時を回っていた。それにしても、ゲストのサイモンは43歳ぐらいのベテランクライマーではあるが、運転してクライミングしてまた運転と、底知れぬ体力と気力の持ち主であった。



ブリティッシュスタイル



傾斜は強い



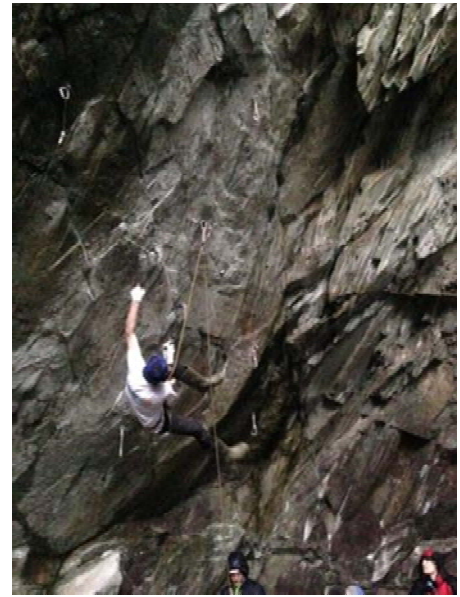
残業も多かった

前半が終わり4日目からは Neil Adams という 32 歳の若い兄ちゃん。昨夜の帰りが遅く、今日はレストでもいいよと言ってくれたが、天気はそれほど悪くないので近場の Cairn Gorm へ。今日のクライミングはマイルドだったが、下りで負傷者に遭遇。稜線から滑落したようで、足など骨折して顔も血まみれ。既に同パーティのメンバーが救助要請してツェルトに包まっていた。寒いというのでダウンジャケットを掛けてあげ、テルモスの紅茶を飲ませてあげた。現地の方はテルモスを持たない。テルモスが重いからなのか、いつもペットボトルやナルゲンで冷え切った飲料を飲んでいる。凍りははしないと言えども、日本的な感覚では信じられないが、日本の山専ボトルの保温力には驚いていた。しばらくして、救助ヘリが近くにランディングし、迅速に病院へ搬送された。スキー場でアプロ



一帯が近く、簡単に入山できてしまうので、初心者の事故や遭難もやはり多いらしい。フリーのゲレンデのようだといえども、油断はできない。ただ、ゲストの装備にツェルトなどの緊急幕営装備はなかった。何かあったらどうなるのかとも思うのだが。それよりも軽量でスピーディに行動する方が優先なのだろう。

5日目は本格的に大荒れ予報なので、山にはいかずドライツールングエリアに行く。2時間かけて着いたケーブは噂では聞いていた通りのどっかぶり。きちんとチッピングされており、手順まで決まっている。ドライツールングなんてまともにやったことのない私は M8 ぐらいまではできたが、M10 になるとお手上げ。ホストクライマーが長靴で M10 を全てフィギア4の繰り返しで登っていたのには唖然とした。帰りは天気が悪く道が通行止めになっていた。この地でスタッドレスタイヤを履いている車はほとんどない。気温がそれほど下がらず雨が多いからだが、寒気が入って雪が降る時はこうして突如通行止めにしてしまうという強引さ。おかげで、5時間のロングドライブとなってしまった。

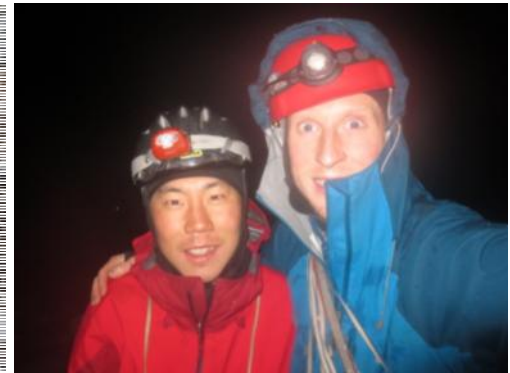


長靴でフィギア4

最終日はそれほど天気が良くないが、場所を選んで An Teallach へ。岩場の中央付近に顕著なクラックがあり、トポでルートを確認めるとラインが無い。ホストのニールに聞くとあそこはまだ未踏のようだ。それならばぜひチャレンジしようということになり早速取りつく。しかし、それが間違いだったと気づいたのは2P 目からのリードであった。ボロボロの浮石だらけでプロテクションも甘い。絶対落ちられないクライミング。ここは滝谷か。これは未踏ではあったかも知れないが、登ってはいけないルートなようだった。実質 4P だったが、7時間の奮闘的なクライミングを最後に満喫した。



中央の顕著なクラック



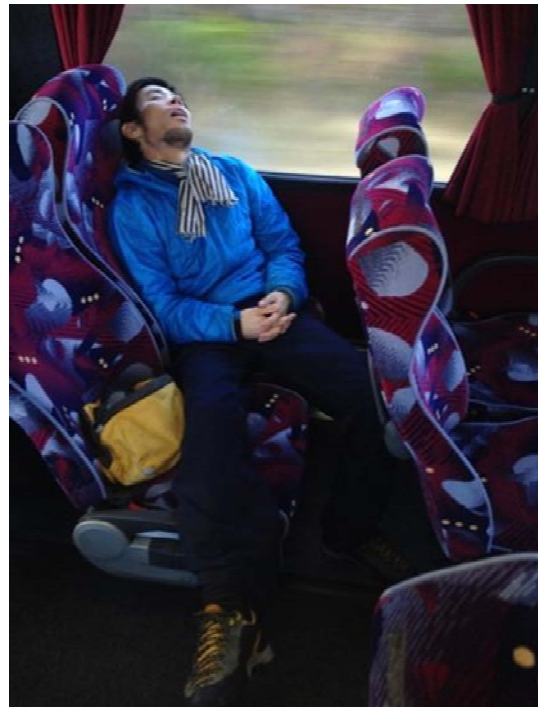
今夜はニールと残業



感想：

スコットランドでの6日間は本当にあっという間であった。初めは言語の壁が不安であったが、そんなものは大した問題ではないとすぐに分かった。環境や文化は違えども、やっているウィンタークライミングは皆同じ。みんなクライミングが大好きってこと。意外なことに今回アジアからは日本以外にはモンゴルからの参加者がいた。モンゴルからは初参加だったようで、それほどシビアなクライミングはしていないようだったが、顔が似ているというだけで何故か親しみを覚え話げできた。

スコットランドのクライミングは傾斜が強くフッキングで登ることが多いかと思えば、草付泥だらけの日本的なところもありと色々楽しめた。そしてまた、日本のクライミングの魅力も再確認できた。錫杖などの似たようなクライミングだけでなく、豪雪地帯でテント担いでクライミングしながら何泊もする。これは日本であるからこそできる山行である。今年の黒部横断で17日間40kg近くの荷物を背負いシャベル振り回しながらラッセルしている写真を見せると皆驚いていた。日本の冬山って素晴らしいんだと改めて実感し、また日本でのクライミングが世界の壁につながっているということも分かった。



連日の夜間行動で疲れ切った今井。帰りのバスにて。

宿泊施設：グレンモアロッジ Glenmore Lodge (Aviemore)

山岳スポーツセンター。食堂、寝室、ホール、乾燥室、クライミングウォールなど、設備は整っており快適に過ごせた。



乾燥室



報告会

食事：朝、夕は食堂で食べられる。朝は7時からだが、出発が早い時は簡単に準備されている。行動食は前夜か出発前にサンドイッチやチョコ、果物やケーキなど選んで持って行く。夕食も7時からだが、遅くなった場合は取置いてくれている。夕食の時間までに帰ってこれたのは2回しかなかったのが残念。



食堂



食事



バー

参加費用：1人£140（約25000円2014年3月現在）

グレンモアロッジでの全期間の宿泊費、食費や岩場への移動費も全て含まれる。ロッジで別途必要となるのはロッジ内のバーでのアルコールなどの個人的な飲食代ぐらいである。スコットランド・インヴァネスまでの渡航費用は日本山岳協会が負担していただいた。

使用ギア：プロテクションはヘックスとナッツがメイン。ロックハーケンやカムは少し。トライカムは現地ではメジャーでは無かったが、結構使えた。ロープは8mm 60m。スクリューは今回使わなかったが、ルートによっては必要。基本的にホストクライマーが用意してくれた。ホストクライマーのアクセスはほぼノミック。僕自身はコブラであったが、傾斜が強いのでノミックの方が断然良さそう。

服装：イメージ的には3月の北アルプス。氷点下になることはまれで、寒さよりも動きやすい服装が必要。濡れるので化繊のジャケット。グローブも薄手か中厚程度でクライミングしやすい方が良い。もちろん毎日濡れてびしょびしょになるが、毎日乾かせるので問題なし。

最後に

BMCをはじめホストクライマーの献身的な協力でこのようなミーティングが開催されており、長い間継続されていることに感銘を受けた。このような機会を与えていただいた日本山岳協会に大変感謝いたします。